

たのしい床下

2007年 ほらいぞん

まえがき

こんにちは。2006年版の会誌では種々のバイトについて書いたわけですが、今回もなんかバイトの話になってしまいました。

まずは現状の説明をいたしましょう。東京に事務所を構えるごく小規模な消毒会社。この会社にはアルバイト社員として4人ものX68部員が勤めています。同じサークルの人間がバイトまで同じくしている。我々がそこまでこの会社に拘る理由は何なのでしょう。経験談とともに記述していこうとおもいます。

消毒屋のお仕事

消毒会社といわれてパツと思いつくものがあるでしょうか。文字どおりに推測するならば、BC兵器などでテロが行われた際、防護服を着て消毒薬を散布する人間を思い浮かべるかもしれません。わりとケミカルなイメージを持つ消毒という単語ですが、実際に消毒屋と呼ばれる人たちが行っている仕事は、害虫・害獣駆除がほとんどであり、いわゆる汚れ仕事といえます。では我々の会社が行っている具体的な仕事内容について説明していきます。

1日のサイクル（我々の会社の場合）

なんでわざわざ「我々の会社の場合」と銘打っているのか。それはうちの社長にこだわりがあるからに他なりません。小規模な会社だけに、社長も現場で働きます。我々は、そろそろ高齢化しつつある社長のサポート兼実働部隊として働きます。

○8:30……事務所出勤時間です。社長のサポートということで、朝から夕方までのフルタイム出勤になります。事務所ではその日使う用具の準備と、作業衣に着替えます。

○9:00……事務所出発です。基本的に作業車（ワゴン車）での移動になります。

○9:20……喫茶店到着です。朝は必ず喫茶店でモーニングを注文します。熱いオシロリが好きなので、お客さんの家と反対方向であろうと、必ず固定の店に行きます。ちなみに、モーニングは社長にオゴってもらえる。

○10:00……仕事開始。一つの作業が、早くて30分。面倒な仕事で2・3時間。移動時間も30分～1時間。それらを複合して、1日のお客さんはおおよそ3・4件です。また、ずいぶん長く移動したり、めんどい仕事などで社長が疲れてくると、作中に2回目の喫茶店が入る日もあります。

○18:00……終了時間はマチマチですが、だいたいこの時間に仕事が終わります。事務所に帰って、着替えて終了。

仕事内容

シロアリ

消毒屋といったらシロアリ、といっても過言ではありません。ほとんどの業者がこれをメインに食ってます。シロアリは、客単価が高いのです。その分我々の仕事も大変になりますけど。

シロアリは、昆虫綱ゴキブリ目シロアリ科の生

物であり、実はアリではありません。湿った環境を好み、空気を嫌います。したがって必然的にフ口場、洗面所、トイレ、台所などの下が被害の多い場所となります。被害箇所は束（つか）や大引（おおびき）が食い荒らされスポンジ状となり、触っただけでつぶれてしまう程になります。

シロアリの被害判別は、壁や柱をたたいた時の音や、束や大引が実際に腐っているかの視認、またはギ道と呼ばれるものの有無によりチェックします。被害が見つかった場合の対処ですが、被害箇所への薬剤注入・散布、および土壌の消毒により行います。消毒薬の散布にはコンプレッサーと呼ばれるホース付きの超強力な水鉄砲を使います。昔は消毒薬に亜ヒ酸を使っていたみたいですが、人体への影響を鑑みて使用禁止になったようです。実はヒ素入りカレー事件の影響だったりして。

■ ネズミ

消毒屋の2つ目の大きな仕事。ネズミ駆除。基本的に古い一戸建ての家が多いですが、鉄筋ビルの店やマンション3階のお客さんからも依頼が来たりします。

体の大きいドブネズミと小さいクマネズミの2種類がいます。ドブネズミは主に床下に生息し、バカなのが特徴。問題はクマネズミで、体が小さいだけにいろんなところから進入し、壁を伝って屋根裏に移動します。慎重派なのでワナにもかかりにくく、長期戦となります。

基本的な対処法は、粘着板により捕まえて数を減らし、殺そ剤を全面にばらまいて家から追い出して、最終的に防そ工事を行ってネズミの入り口を全てふさぐことです。しかしながら最近のネズミは粘着板にひっかからないし、薬剤耐性もついて市販の殺そ剤じゃ死なないし、駆逐まで時間がかかることが多いです。今のところ、最終手段と

してオゾンや紫外線で弱らせた状態で粘着板にかけるという手法を用いていますが、会社側のコストが高いのであんまりやりたくないです。

一度粘着板を仕掛けると週1ペースで点検に行きますが、たまに粘着板にひっかかったばかりのネズミがいて、ピクピク動いているときがあります。当然そういうのもゴミ処理するのですが、この場合板を二つに折りたたんで上から踏みつけて殺してから捨てます。踏むと「チュッ！！」といて死にます。

■ ゴキブリ

3つ目はゴキブリです。依頼のほとんどが飲食店からになります。

バ〇サンのように霧を出す空間処理と言われる方法もありますが、いろんなものにシートを被せる養生作業があつてめんどくさいし、そもそも飲食店ではやりません。ベート剤（食毒剤）もありますが、一個の単価が高いためこれもあまり使用しません。一番楽且つ効率が良いのは、ゴキブリの通りそうな場所に薬物をばらまいていく残留噴霧処理と呼ばれるものです。液状の薬剤を壁の端や排水溝、冷蔵庫の下などにぶっかけておき、後々ゴキブリがそれをなめると死にます。体内に入り巣に持ち込んだ後に効きはじめる遅効性タイプが社長のお気に入りのようです。

■ 蜂、毛虫、その他虫

ミツバチ、アシナガバチ、スズメバチ、いろんなハチの巣を駆除します。客単価が安い割りにウチらが死ぬ可能性もありえるので、いちばん嫌な仕事になります。また、毛虫やその他の虫に関しても、カブレたりかゆくなったりしてこっちの被害ばかりです。

基本的に防護服を着て作業します。目の部分以

外空気穴も無いので、夏は異常に暑くなります。そもそも昆虫なんて夏しか活動しないし、ハチに関しては専用のスプレーで一発死にです。巣に向かって噴射するとハチがボタボタ落ちてきます。この効き目はスゴイ。スプレーも5mくらい届く。これもスゴイ。毛虫とかは粘着板にひっつけてから、周辺の木に農薬散布です。

■ ハクビシン、害獣

筆者はこのバイトで初めて聞いた単語ですが、ハクビシンという害獣がいるのです。ネコ目ジャコウネコ科の生物で、雑食性でどう猛なヤツ。近づくと引っかいてくるらしい。鳥獣保護法で狩猟獣に指定されているため、免許が無いと殺して捕らえることができません。木登りが得意なため、屋根裏に住み着いてフンをしたりドタバタうるさかったり、かみついたりして危ないので依頼がきます。でかいしネズミよりバカなので駆除は楽。

■ お掃除

クモの巣とか張ったアパートとか、その他汚い場所のお掃除をすることもあります。ほうきで掃いて、雑きんで丁寧にふきます。それだけです。割りとアクロバティックな場所の掃除もするので、脚立から落ちないように注意しなくてはなりません。

また、非常に高度なお掃除として、死体が放置されていた部屋の掃除を依頼されることもあるそうです。とてつもない悪臭を放っているそうですが、かなりのレアケースなので筆者は遭遇したことがありません。

■ その他の消毒

上のお掃除からも分かるように、汚れ仕事の他に、何でも屋をやらされることがあります。筆者が経験した中では、特に害虫がいらないけどマンショ

ンの庭に消毒薬とか農薬を散布したり。消毒薬入ってなかったら如雨露で水遣りしてるのと変わらん。

1年のサイクル

消毒屋の仕事は、春が最も忙しく、冬が最も暇になります。

■ 春

春はシロアリの件数が多いため、重たいコンプレッサーを持ち歩き、毎日のように縁の下に潜らなくてはなりません。縁の下に潜るといのは想像以上に体力を消耗します。さらに、ツナギでカバーしてるとはいえ、土ぼこりで顔などが汚れてくるので結構嫌な気分になります。1日に3回潜ると、フロに入らずにはいられません。

■ 夏

夏はシロアリの件数が減る代わりにゴキブリとハチの件数が増えます。何もしなくても暑いので、ツナギを着て入る縁の下は汗だくになってしまいます。ネズミの死体はすぐに腐乱してしまうので最悪の季節です。粘着板を設置して1週間後に点検に行ったときにはものすごい腐乱した状態で、やたらでかいウジが大量に沸いていた、世界の終わりをほうふつとさせる状況に出くわしたことがあります。

■ 秋～冬

この時期は虫の活動も抑えられるので全体的に依頼が減りますが、ハクビシンの件数だけグッと増えます。寒くなってくるので暖を求めて屋根裏に上がってくるからです。なお、ネズミに関しては1年中依頼が来ますが、冬はネズミ捕りに行っても死体の保存状態がよく、ハエもたかってないので平和に処理することができます。

消毒屋が見る いろんな事情

一戸建てを持つお客様

これ、手抜き工事ちゃうんか

みなさんは、家の構造をご存知でしょうか。そもそも、床の下が空洞になってるのは知ってましたか？ 日本は湿気の多い国ですから、風通しをよくするために床下にはおおよそ50cmほどの空間を設けています¹。この空間が狭すぎると、木や畳が湿気で腐ってしまいます。

ちなみに、『縁の下』『床下』の違いですが、『縁』は建物の外部にあるものを呼び、『床』は建物の内部にあるものを呼ぶらしいです。筆者も詳しくは知りません。本稿ではほぼ同義に扱っているのでお構いなく。

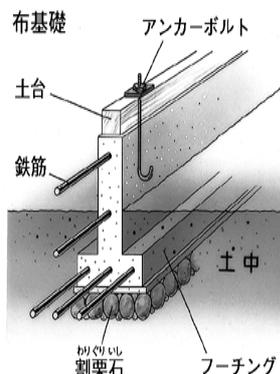


図1 基礎の構造

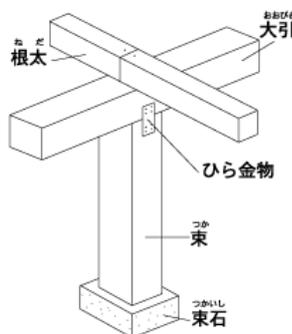


図2 束の構造

基本的に土の上に<基礎→大引>、<束石・束→大引>という風に立てられています。(図1、図2参照) 家を支え、加重を地盤に逃がすための超重要な機構です。家を建てる際には、まず土台があって次に柱です。ここがダメだと、その家自体がダメになります。

仕事で縁の下に潜ると、ときどきインチキ工事らしき現場に出くわします。例えば、「束と束石

の間に1cmくらいの空間がある」とか、「地震でヒビのはいりまくった基礎まわり」とか。どちらも、見つかったらヤバメな内容。手抜き工事じゃないと好意的に解釈するのなら、きっとこういう効果があるのだろう。「束と束石の間に空間を設けることによって、シロアリが登ってくるのを防ぐ」「本来密閉性の高いコンクリートにヒビを入れることによって、通気性を増す」

縁の下にあるもの

家の持ち主さえ入ることのない縁の下。まっさらな土の上に家が建てられてると思いきや、実は結構いろんなものが落ちているものです。マジックペン、茶わん、メモ帳、お菓子の袋、塩ビパイプ、洗濯用ピンチハンガー、ゲームソフトのパッケージ、ゴミ、ゴミ、ゴミ、etc...

基本的にゴミが落ちてます。縁の下はゴミだらけなのです。多くは、基礎工事の際に作業員が捨てていったものでしょう。建ててしまっただけに、ゴミを捨てていってしまう業者については、モラルが疑われますね。

飲食店からのお客様

飲食店と切っても切れない関係にあるのがネズミやゴキブリ。特にゴキブリ駆除の依頼は個人よりも法人のほうが多いです。調理場に出現するならまだしも、お客さんの目の前に出ちゃったら大事件ですよ。

ネズミ

飲食店のほかに、事務系の業者からも依頼が来ます。どうやらオフィスにネズミが走り回ってるようで。

1 木造住宅を前提としている。一戸建てを鉄骨で作る人もめずらしいと思うけど。

「隣のビルが解体工事してるんだけど、そした

らウチにネズミが出るようになったんだよねえ。隣から引越して来ちゃったのかなあw」とか冗談めかして言ってましたけど、これ正解です。実際のところ、東京都心部はネズミだらけでして、飲食ビルだろうと事務ビルだろうと、暖かくて住みやすければどこでもOKみたいです。ビルの構造上、ネズミの入りやすい箇所がたくさんあるようで、オフィスの一角をどうこうしたところでビルからネズミがいなくなるなんてことは無いのですけど。．．．巣を張っていたビルが解体されれば、新しい巣を求めて隣のビルにやって来る、なんてのは珍しい話ではありません。ちなみに新宿は飽和状態らしく、最近では高田馬場とか近隣の街へ広がっていったみたい。

某チェーン店から依頼が来たときの会話。

「(調理場の)ここにバナナを置いてたんですけど、やっぱり朝来たらかじられてたみたいで…」

おまえらそれ切って客に出してねえだろうな。

ゴキブリ

飲食店では、ネズミとゴキブリをセットで駆除してくれ、なんて話がよくあります。お前らただけ不衛生なんだと。

前途のとおり、都心部ではネズミは防ぎきれません。しかし、ゴキブリは清潔にしてれば基本的に出てきません。とは言っても、大規模チェーン店なんかはスタッフがバイトだったりしますし、店自体広くて掃除が行き届かないとかあるでしょう。そうゆう、調理場が汚いところにゴキブリが発生します。高級そうな店でも出てるもんですよ。

食品工場からの依頼もあります。工場はやたら広いので仕事も大変です。某パン工場でバイトしてた友人が言ってましたが、「ネズミやゴキブリが結構いる」とのこと。どうやらウソではないらしい。まあ、重金属やダンボールを食うよりマシ

と考えましょう。

人間の通れる限界の穴

縁の下が、基礎によって完全に区切られている密閉空間があります。そのような箇所に入るためには、新しく穴を開けなくてはなりません。普通は風通しをよくするためか、後から通る我々のことを考えてか、基礎にトンネル状の穴が開けてあります。

さて、ネズミやネコは頭が通れる穴ならば体も通ってしましますが、人間はそこまで柔軟な体をしていません。ましてや床下です。穴の途中でつかえてしまっただけはかなり悲惨です。では人間が通れる穴というのはどのくらいでしょうか。筆者の経験上、片腕と頭が通れば抜けられます。小柄な人ならば、B4用紙程度の大きさを抜けられるはず。女の人は肩幅が狭いですが、胸がつかえるのでやめたほうがいいかもしれません。

あとがき

消毒屋にはならないほうが良い。不衛生だし、薬剤を扱うため体によくありません。気楽で給料は悪くないはずですが、やるとしても若いうちはやめたほうがいいのかと。また、閉所恐怖症の人は絶対に床下に潜らないこと。暗くて狭いので、中でパニック症状を起こす可能性があります。

2007年度 会誌 ほらいぞん記す

<http://slrv.mine.nu/mt/>